

PRESS RELEASE

30
years of
collaboration

ギャラリー小柳 展覧会のご案内

杉本博司 海景 江之浦 | 前写真、時間記録装置

2026.7.4 (Sat) – 9.12 (Sat)



Hiroshi Sugimoto, *Bay of Sagami, Enoura*, 2026

報道関係者 各位

平素よりお世話になっております。

6月16日（火）より東京国立近代美術館で「杉本博司 絶滅写真」展が開催されています。写真作品で構成する美術館での個展としては、2005年森美術館での「杉本博司 時間の終わり」以来となる本展は、「絶滅」をテーマに銀塩写真というメディアの終焉から人類文明の絶滅までも見据えて、杉本博司の作品世界を展覧する大回顧展となります。

本展にあわせ、ギャラリー小柳では7月4日（土）から9月12日（土）の会期で「杉本博司 海景 江之浦 | 前写真、時間記録装置」展を開催いたします。本展では江之浦測候所から撮影された〈海景〉の全作品を一堂に展覧、また杉本自身が蒐集した化石を撮影し、プラチナプリントで制作した〈P.P.T.R.D.〉シリーズもあわせて展示します。

海景 江之浦

写真、建築、造園、彫刻、舞台芸術、書と様々な領域に活動を広げる杉本博司。その芸術の原点は半世紀にわたってこだわり続けてきた「銀塩写真」にあります。〈ジオラマ〉〈劇場〉と共に初期三部作のひとつである〈海景〉は、杉本の銀塩写真の真骨頂と言えるでしょう。水平線を中心に海と空だけで構成されたミニマルな画面は、杉本の銀塩写真術だけが可能とする無限の階調によって生み出され、その静謐な世界は人間の視覚の限界を超えるものです。

「古代人が見ていた風景を、現代人も見ることは可能なのだろうか」という自らの問いに答えて、太古から変わらない空と海の風景を映し出し、人類の意識の始まりをたどる〈海景〉。自身の「原風景」と言う相模湾の海景を、杉本が小田原文化財団 江之浦測候所から撮り始めたのは2022年のことでした。漁船やボートが海に出ない元旦にだけ撮影が可能となる江之浦での海景の撮影は、杉本が新しい年を始める習慣となりつつあります。本展では、2022年の第1作から本年の2026年の最新作まで、すべての江之浦の海景を展覧するまたとない機会となります。

前写真、時間記録装置

甲殻類の化石は石を割ったときに現れた化石で、写真のポジとネガのように二つになって、1億5000万年が凍結されているのだ。私はここに人類の歴史を超えて生命の歴史も辿ってみようと思う

— 杉本博司

杉本の写真と時間に向けた考察は太古の時代にまでも遡ります。杉本は長年にわたり化石を蒐集しており、その一部は江之浦測候所の「化石窟」で展示されています。人類の発生よりるか昔に過去を正確に記録していた媒体である化石を「写真以前の時間記録装置である」として再び写真に定着させたのが〈P.P.T.R.D.〉（Pre-Photography Time-Recording Device）シリーズ。プラチナプリントが醸し出す銀塩写真とは異なる質感と豊かな階調のプリントをご覧ください。

展覧会の初日、7月4日（土）午後5時から7時まで、杉本博司を迎えてレセプションを開催いたします。東京国立近代美術館での「杉本博司 絶滅写真」展とあわせて、江之浦の〈海景〉が勢揃いする本展をぜひご高覧ください。

資料および図版のご依頼はギャラリーまでご連絡ください。

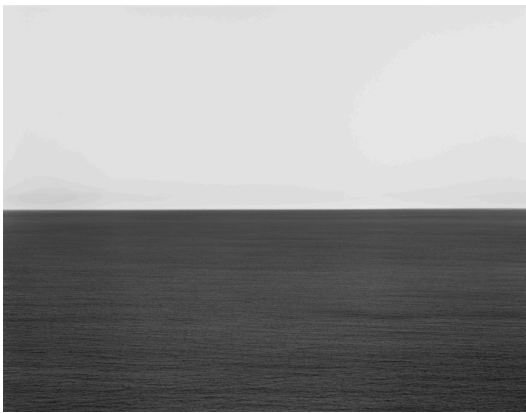
ご掲載の際にはご一報いただけますよう、お願い申し上げます。

ギャラリー小柳

【広報用図版】

ご使用の際は、下記キャプションとクレジットラインを表記いただくようお願いいたします。
下記ご承知おきの上ご使用くださいますようお願いいたします。

- ・図版のトリミング不可
- ・図版への文字載せ不可
- ・図版の二次使用禁止、ご使用後は速やかにデータを破棄してください。



〔キャプション〕

杉本博司
相模湾、江之浦
2026 年
銀塩写真

Hiroshi Sugimoto
Bay of Sagami, Enoura
2026
gelatin silver print

杉本博司
P.P.T.R.D. 040
2008 年
プラチナプリント

Hiroshi Sugimoto
P.P.T.R.D. 040
2008
platinum and palladium print

〔クレジットライン〕

© Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi

【展覧会概要】

展覧会名：杉本博司 海景 江之浦 | 前写真、時間記録装置
会期：2026 年 7 月 4 日（土）－ 9 月 12 日（土）
〔オープニング・レセプション：7 月 4 日（土）17:00-19:00〕

開廊時間：12:00-19:00
休廊日：日／月／祝日
夏期休廊：8 月 9 日－8 月 17 日

会場：ギャラリー小柳
東京都中央区銀座 1-7-5 小柳ビル 9F
Tel: 03-3561-1896 Fax: 03-3563-3236

アクセス：
東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅 7 番出口より徒歩 1 分
丸ノ内線・銀座線・日比谷線 銀座駅 A-9 出口より徒歩 5 分

お問い合わせ：ギャラリー小柳
Tel: 03-3561-1896
Mail: mail@gallerykoyanagi.com
<http://www.gallerykoyanagi.com>

【美術館で開催中の杉本博司個展情報】

『杉本博司 絶滅写真 Hiroshi Sugimoto: Extinction』
会場：東京国立近代美術館 1F 企画展ギャラリー
会期：6 月 16 日（火）－ 9 月 13 日（日）
開館時間：10:00-17:00（金曜・土曜は 10:00-20:00）
休館日：月曜日（ただし 7 月 20 日は開館）、7 月 21 日
[東京国立近代美術館 URL](#) [展覧会公式サイト](#)

* 東京国立近代美術館の 3F 所蔵品ギャラリーでは、杉本が写真作品制作の作業工程を記録した「スギモトノート」と同館所蔵杉本作品をサテライト展示しています。

『Hiroshi Sugimoto: Form Is Emptiness』
会場：Singapore Art Museum シンガポール美術館（シンガポール）
会期：5 月 29 日（金）－ 10 月 4 日（日）
[Singapore Art Museum URL](#)

『Hiroshi Sugimoto. reprendre la mélodie (Replay the Melody)』
会場：Musée Soulages（ロデーズ、フランス）
会期：4 月 11 日（土）－ 9 月 13 日（日）
[Musée Soulages URL](#)

杉本博司

1948 年東京生まれ。1970 年に渡米、1974 年よりニューヨーク在住。活動分野は写真、建築、造園、彫刻、執筆、古美術蒐集、舞台芸術、書、作陶、料理と多岐にわたり、世界のアートシーンにおいて地位を確立してきた。杉本のアートは歴史と存在の一過性をテーマとし、そこには経験主義と形而上学の知見をもって西洋と東洋との狭間に観念の橋渡しをしようとする意図があり、時間の性質、人間の知覚、意識の起源、といったテーマを探求している。作品は、メトロポリタン美術館（NY）やポンピドゥセンター（パリ）など世界有数の美術館に収蔵。代表作に『海景』、『劇場』、『建築』シリーズなど。

2008 年に建築設計事務所「新素材研究所」を設立、MOA 美術館改装（2017）、清春芸術村ゲストハウス「和心」（2019）などを手掛ける。2009 年に公益財団法人小田原文化財団を設立。2017 年 10 月には構想から 20 年の歳月をかけ建設された文化施設「小田原文化財団 江之浦測候所」をオープン。伝統芸能に対する造詣も深く、演出を手掛けた『杉本文楽 曾根崎心中』公演は海外でも高い評価を受ける。2019 年秋には演出を手掛けた『At the Hawk's Well（鷹の井戸）』をパリ・オペラ座にて上演。主な著書に『苔のむすまで』、『現な像』、『アートの起源』、『空間感』、『趣味と芸術－謎の割烹味占郷』、『江之浦奇譚』、最新刊に『杉本博司自伝 影老日記』。1988 年毎日芸術賞、2001 年ハッセルブラッド国際写真賞、2009 年高松宮殿下記念世界文化賞（絵画部門）受賞。2010 年秋の紫綬褒章受章。2013 年フランス芸術文化勲章オフィシエ受勲。2017 年文化功労者。2023 年日本芸術院会員に選出。

受賞歴

2023	日本芸術院会員 任命
2018	ナショナル・アーツ・クラブ 名誉勲章 [写真] 部門、ニューヨーク
2017	文化功労者 選出 王立写真協会賞、ロンドン
2014	第 1 回イサム・ノグチ賞、ニューヨーク
2013	フランス芸術文化勲章オフィシエ章、パリ
2010	秋の紫綬褒章
2009	高松宮殿下記念世界文化賞 [絵画] 部門
2006	フォトエスパーニャ賞、マドリッド、スペイン
2001	国際写真賞、ハッセルブラッド基金、ヨーテボリ、スウェーデン
2000	名誉博士号、パーソンズ・スクール・オブ・デザイン、ニュースクール大学、ニューヨーク
1999	グレン・ディンブレックス賞、アイルランド近代美術館、ダブリン 第 15 回アニュアル・インフィニティ賞、国際写真センター、ニューヨーク
1988	毎日芸術賞
1982	国立芸術基金（NEF）助成金、ワシントン D.C.
1980	ジョン・サイモン・グッゲンハイム記念財団奨学金、ニューヨーク
1977	C.A.P.S. 奨学金、ニューヨーク

主な個展

- 2026 「杉本博司 絶滅写真」東京国立近代美術館
「Hiroshi Sugimoto: Form Is Emptiness」Singapore Art Museum
「Hiroshi Sugimoto: Replay the Melody」Musée Soulages、ロデーズ（フランス）
- 2025 「『数寄者』の現代—即翁と杉本博司、その伝統と創造」荏原 畠山美術館（東京）
「Hiroshi Sugimoto」Winsing Art Place、台北
- 2024 「Form Is Emptiness, Emptiness is Form」Lisson Gallery、ロサンゼルス
「Optical Allusion」Lisson Gallery、ニューヨーク
「Giacometti/Sugimoto: Staged」The Institute Giacometti、パリ
- 2023 「Opera House, a selection for Bergamo,」Academia Carrara、ベルガモ（イタリア）
「Hiroshi Sugimoto」Fraenkel Gallery、サンフランシスコ
「Hiroshi Sugimoto: Time Machine」ヘイワード・ギャラリー、ロンドン／ユーレンス
現代美術センター、北京（2024）／シドニー現代美術館（2024）
「杉本博司 本歌取り 東下り」渋谷区立松濤美術館（東京）
「杉本博司 火遊び Playing with Fire」ギャラリー小柳（東京）
- 2022 特別展 春日若宮式年造替奉祝「杉本博司—春日神霊の御生 御蓋山そして江之浦」
春日大社国宝殿（奈良）
「杉本博司 本歌取り—日本文化の伝承と飛翔」姫路市立美術館（兵庫）
「OPERA HOUSE」ギャラリー小柳（東京）
「春日神霊の旅—杉本博司 常陸から大和へ」神奈川県立金沢文庫
- 2021 「OPTICKS」ギャラリー小柳（東京）
- 2020 「飄々表具—杉本博司の表具表現世界—」細見美術館（京都）
「杉本博司 瑠璃の浄土」東山キューブ、京都市京セラ美術館
「Past Presence」ギャラリー小柳（東京）
- 2018 「クアトロ・ラガッツィ 桃山の夢とまぼろし—杉本博司と天正少年使節が見たヨーロッパ」長崎県美術館
「SUGIMOTO VERSAILLES Surface of Revolution」トリアノン、ヴェルサイユ宮殿（フランス）
「信長とクアトロ・ラガッツィ 桃山の夢と幻 + 杉本博司と天正少年使節が見たヨーロッパ」MOA 美術館（静岡）
「杉本博司：Still Life」ベルギー王立美術館、ブリュッセル（ベルギー）
- 2017 「杉本博司：天国の扉」ジャパン・ソサエティ、ニューヨーク
「LE NOTTI BIANCHE」サンドレット・レ・レバウデング財団現代美術館、トリノ（イタリア）
- 2016 「杉本博司 ロスト・ヒューマン」東京都写真美術館
- 2015 「趣味と芸術—味占郷」千葉市美術館／細見美術館（京都、2016）
「今昔三部作」千葉市美術館／モスクワ・マルチメディア美術館（ロシア、2016）／
Musée des Beaux-Arts, Le Locle、ヌーシャテル（スイス、2016）
- 2014 「ON THE BEACH」ギャラリー小柳（東京）
「ロスト・ヒューマン・ジェネティック・アーカイブ」パレ・ド・トーキョー、パリ
「杉本博司：Past Tense」The J. Paul Getty Museum、ロサンゼルス
- 2013 「杉本博司」サムスン美術館リウム、ソウル
- 2012 「Five Elements」ギャラリー小柳（東京）
「杉本博司 ハダカから被服へ」原美術館（東京）

- 2011 「杉本博司 アートの起源 | 建築」 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）
- 2009 「杉本博司—光の自然」 IZU PHOTO MUSEUM（静岡）
「放電場」 ギャラリー小柳（東京）
- 2008 「歴史の歴史」 金沢 21 世紀美術館（石川）／国立国際美術館（大阪、2009）
- 2007 「漏光」 ギャラリー小柳（東京）
「杉本博司」 K20 ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館、デュッセルドルフ（ドイツ）／ノイエ・ナショナルギャラリー、ベルリン（ドイツ、2008）
- 2006 「本歌取り」 ギャラリー小柳（東京）
「観念の形 数理模型」 アトリエ・ブランクーシ ポンピドゥー・センター、パリ
- 2005 「歴史の歴史」 ジャパン・ソサエティー・ギャラリー、ニューヨーク
「杉本博司：時間の終わり」 森美術館（東京）／ハーシュホーン博物館と彫刻の庭、ワシントン D.C（アメリカ、2006）
- 2004 「大ガラスが与えられたとせよ」 カルティエ現代美術財団、パリ
- 2003 「杉本博司」 サーペンタイン・ギャラリーズ、ロンドン
「杉本博司：歴史の歴史」 メゾンエルメス フォーラム（東京）
「ARCHITECTURE」 ギャラリー小柳（東京）
「杉本博司：建築」 シカゴ現代美術館（アメリカ）
- 2001 「杉本博司：時の建築」 ブレゲンツ美術館（オーストリア）
「Portraits」 ギャラリー小柳（東京）
- 2000 「杉本博司」 ルフィーノ・タマヨ美術館、メキシコシティ（メキシコ）
「杉本博司：建築シリーズ」 サンフランシスコ近代美術館（アメリカ）
「杉本博司：ポートレート」 ドイツ・グッゲンハイム美術館、ベルリン（ドイツ）／ビルバオ・グッゲンハイム美術館（スペイン）
- 1999 「陰翳礼讃」 ギャラリー小柳（東京）
- 1998 「モダニズム」 ギャラリー小柳（東京）
- 1997 「Twice as Infinity」 ギャラリー小柳（東京）
- 1996 「杉本博司：写真」 ストックホルム近代美術館（スウェーデン）
「Motion Picture」 ギャラリー小柳（東京）
- 1995 「Still Life」 ギャラリー小柳（東京）
「杉本博司」 メトロポリタン美術館、ニューヨーク／ヒューストン・コンテンポラリー・アート・美術館（アメリカ、1996）／ハラ ミュージアム アーク（群馬、1996）／アクロン美術館（アメリカ、1997）
「杉本博司：Time Exposed」 クンストハレ・バーゼル（スイス）
- 1994 「杉本博司」 ロサンゼルス現代美術館（アメリカ）
- 1992 「杉本博司：Time Exposed」 CAPC ボルドー現代美術館（フランス）
- 1991 「杉本博司：Time Exposed」 佐賀町エキジビット・スペース、佐賀町 BIS、IBM 箱崎ビル前庭（東京）
- 1989 「近作展 6—杉本博司」 国立国際美術館（大阪）
- 1988 「杉本博司」 佐賀町エキジビット・スペース（東京）／ツァイト・フォト・サロン（東京）
「杉本博司：ジオラマ、劇場、海景」 ソナベンド・ギャラリー、ニューヨーク
- 1977 「杉本博司」 南画廊（東京）

主なグループ展

- 2025 「SPRING わきあがる鼓動」 ポーラ美術館（神奈川）
「開館 30 周年記念 未来／追想 千葉市美術館と現代美術」 千葉市美術館（千葉）
「永劫回帰に横たわる虚無 三島由紀夫生誕 100 年＝昭和 100 年」 GYRE（東京）
「Out of focus, another vision of art from 1945 to the present day」 オランジュリー美術館、パリ
- 2024 「UNSOLD UNSOLD | 杉本博司、ソフィ・カル、青柳龍太」 ギャラリー小柳（東京）
「Six Lives: The Stories of Henry VIII's Queens」 ナショナル・ポートレート・ギャラリー、ロンドン
「Janus」 Berggruen Arts, Culture exhibition Palazzo Diedo、ヴェニス（イタリア）
- 2023 「ワールド・クラスルーム：現代アートの国語・算数・理科・社会」 森美術館（東京）
- 2022 「Dioses, magos y sabios. Las colecciones privadas de los artistas」 CaixaForum Madrid、マドリッド／CaixaForum Barcelona、バルセロナ（スペイン、2023）
- 2020 「STARS 展：現代美術のスターたちー日本から世界へ」 森美術館（東京）
- 2017 「不在を作っているもの」 ハーシュホーン美術館・彫刻庭園、ワシントン D.C.（アメリカ）
- 2015 「シンプルなかたち展：美はどこからくるのか」 森美術館（東京）
- 2014 「シンプルなかたち」 ポンピドゥー・センター・メッス（フランス）
- 2012 「アジアの亡霊」 サンフランシスコ・アジア美術館（アメリカ）
- 2011 「ヨコハマトリエンナーレ 2011」 横浜美術館（神奈川）
- 2010 「第 17 回シドニービエンナーレ」 コカトウー島 POWER HOUSE（オーストラリア）
「セクシュアリティと超越」 ピンチェック・アートセンター、キエフ（ウクライナ）
- 2009 「マッピング・ザ・スタジオ」 プンタ・デラ・ドガーナ、ベネチア（イタリア）
「第三の心：アメリカ人アーティストが見つめたアジア、1860-1989」 ソロモン・R・グッゲンハイム美術館、ニューヨーク
- 2008 「リアリティチェック：現代写真における真実と幻想」 メトロポリタン美術館、ニューヨーク
「写真についての写真：メディアムに写り込むもの 1960 年より」 メトロポリタン美術館、ニューヨーク
- 2004 「単数形（時々反復）：1951 年から現在までのアート」 グッゲンハイム美術館、ニューヨーク
- 2003 「ハピネス：アートにみる幸福への鍵」 森美術館（東京）
「日本写真の歴史」 ヒューストン美術館（アメリカ）／クリーヴランド美術館（アメリカ）
- 2002 「ムーヴィング・ピクチャーズ」 ソロモン・R・グッゲンハイム美術館、ニューヨーク
- 2001 「ヨコハマトリエンナーレ 2001」 パシフィコ横浜展示ホール（神奈川）
- 2000 「ゲンダイ：日本現代美術一身体と空間の間」 ウジャドゥスキー城現代美術センター、ワルシャワ（ポーランド）
「拡張する地平線 ホイットニー美術館収蔵品に見る風景写真」 ホイットニー美術館フィリップモリス分館、ニューヨーク
- 1999 「美に関して：20 世紀末の視点」 ハーシュホーン美術館・彫刻庭園、ワシントン D.C.（アメリカ）
「第 3 回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」 ブリスベン（オーストラリア）
「ミューズとしての美術館」 ニューヨーク近代美術館、ニューヨーク

- 1998 「今世紀の終わりに：建築の100年」東京都現代美術館／ロサンゼルス現代美術館（アメリカ）
- 1997 「In Visible Light：芸術、科学および日常における写真と分類」オックスフォード近代美術館（イギリス）
- 1996 「第10回シドニービエンナーレ」ニューサウスウェールズ・アートギャラリー、アートスペース&イワン・ド・ハーティー・ギャラリー（オーストラリア）
「プロスペクト 96：現代美術における写真」フランクフルト・クンストフェライン、シルン・クンストフェライン（ドイツ）
「夜に」カルティエ現代美術財団、パリ
- 1995 「アルバム：ボイマンズ=ファン・ベーニンゲン美術館写真コレクション」ボイマンズ=ファン・ベーニンゲン美術館、ロッテルダム（オランダ）
「日本の現代美術 1985—1995」東京都現代美術館
- 1994 「空間・時間・記憶：Photography and Beyond in Japan」原美術館（東京）
「戦後日本の前衛美術展：空へ叫び」横浜美術館（神奈川）／グッゲンハイム美術館ソーホー、ニューヨーク（アメリカ、1995）／サンフランシスコ近代美術館（アメリカ、1995）
- 1993 「21世紀：バラケルススと未来に向って」クンストハレ・バーゼル（スイス）
- 1992 「隠されたリフレクション」イスラエル博物館、エルサレム（イスラエル）
- 1991 「カーネギー・インターナショナル 1991」カーネギー美術館（アメリカ）
「キャビネット・オブ・サイنز：ポストモダン日本の現代美術」テート・ギャラリー・リバプール（イギリス）
- 1990 「80年代の日本美術」フランクフルト・クンストフェライン（ドイツ）
「写真の過去と現在」東京国立近代美術館（東京）
- 1987 「アメリカにおける日本現代美術 (1)：アリタ、ナカガワ、スギモト」ジャパン・ソサエティー・ギャラリー、ニューヨーク
- 1978 「新蔵作品展」ニューヨーク近代美術館

*巡回展の開催年